

拝啓 今年も早や1月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。雪の降ったあと朝散歩をしますと、太陽の光がキラキラと輝き、一段ときれいに見えます。

今回も、「小西芳之助先生金曜会語録」からの引用の第15回目です。今回の部分は、昭和44年から45年にかけて同志会の金曜会に出席された時の語録です。学生時代英語の神田乃武先生の英語教科書で学んだ“Don't try to do uncommon things, but try to do common things uncommonly well.”

(非凡なことをしようとするな。平凡なことを非凡な程上手に行なおうとしなさい) という言葉を話されていますが、この『エンカウンター』も、私が読んで信仰的に感銘を受けた文章を毎月10頁分写してみなさんに送るという平凡な仕事ですが、166号(年数で言えば13年)も継続したということが非凡なことになるのかなあ、と感じながら読みました。

正月1月2日から5日まで、家族で長崎県の五島列島に出かけ、観光をしてきました。五島列島には、明治時代多くのカトリックの教会が建てられ、下五島、上五島で50もの教会があり、そのうち約20教会ほど、タクシー観光で案内してもらいました。小さな漁村の集落にも立派な教会があり、小さい教会でも50人は座れる大きさ、大きな教会では100-200人ぐらい座れそうで、一番小さな教会でも、昔の高円寺東教会より大きいと思いました。どの教会も正面高い位置に十字架にかかったイエスの姿がまつられ、自然に十字架のイエスを仰ぎ見るようになっていたことも素晴らしいと思いました。素直に十字架のイエスを仰ぎ見て、いまも生きておられるイエス(復活のイエス)を信じるようになると思いました。また、イエス様、マリア様、パウロその他のお弟子の立像が多くの教会の祭壇脇、入口などに飾られており、8頭身-10頭身で美男美女の姿であることも印象的でした。訪ねた教会では中に入り、椅子にすわり、しばし短い祈りを捧げましたが、正月早々思いがけない良い旅行ができました。カトリックの信仰、力を見直しました。また赤石達也氏の著書『紙上の教会と日本近代』(岩波書店)で書かれた、「無教会は、紙の上の教会である」という結論を認めざるを得ないと思いました。

1月21日は、大学時代の山の会のOB回総会があり出席しました。今年は60周年ということで、400ページを超える立派な記念誌が出来上がりました。私も編集委員の一人として参加しましたが、良い記念となる本が出来ました。

1年で最も寒い時期となりましたが、皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

平成28年1月25日

山口周三

エンカウターの読者各位